

朝日寺だより

新年を迎えて

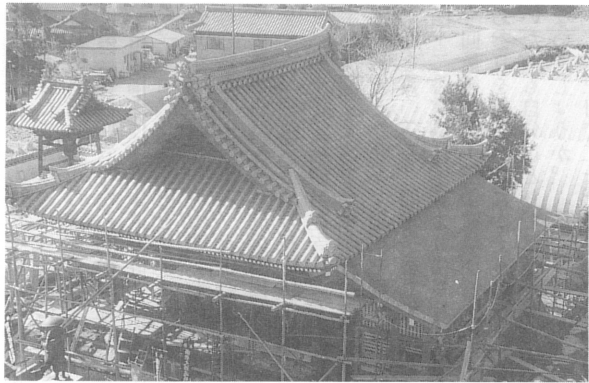
住職 若松隆英



檀信徒の皆様、明けましてお目出とうございます。良いお正月をお迎えの事と存じます。

朝日寺におきましても、昨年四月より金塚建設の手でなされておりました本堂修復もかなり進み、県道からもみごとな雄姿が望める様になりました。完成まであとわずかでございます。又いたんでおりました本尊薬師如来さまの台座も、仏師長谷川隆鳳師により修繕がなされております。

「信は莊嚴から」という言葉がございます。人間はまず目で見て物を感じます。



修理中の本堂

ありがたみのある建物に接して信仰心も生まれ、また深まるわけでございます。私が寺へ帰りまして十七年になります。ずいぶん寺もその間に良くなりまして、客殿、鐘付堂、門、塀、牧拳にいたまがありません。これも総代の方々のご努力、檀信徒の方々の篤い協力のおかげです。深く感謝申し上げます。しかし皆様にお参りいただいてこそ良くなつた事が生きるわけでございます。気軽に参りいただきたいと存じます。

朝日寺を取り巻く環境も、この間随分変わってまいりました。これは全国的な問題でもありますが、過疎化・高齢化・少子化という事でございます。道を歩いていまして、お年寄りには会いますが、子供や若い人の姿を見るのはまれです。こういう大きな変化の中に個々の家庭の問題がからまって、寺に諸種の要望が寄せられております。

まず参りやすい、管理に手間のかからない墓地でございます。これは寺の南に朝日寺墓苑を造成いたしました。

次に祭りのないお位牌の増加です。子供さんがいないとか、嫁に出してしまつて実家の位牌までは面倒を見てもらえそうにないとかという事で、寺で祭つてもらえないかという要望です。このたび寺では本堂裏に位牌堂を増設いたしましたので充分お祭り出来る様になりました。

これからの課題としては、寺で葬式が気兼ねなく出来る様にする事かと思ひます。自宅は平生の家族の生活のためという事で、いざという時はそれぞれの場所を利用しようというのが時代の傾向です。町では葬祭業者による葬儀場が次々つくられていますが、寺であれば随分負担が軽く葬儀が出来るのではないかと思ひます。

この一年が皆様にとって、幸多い年であります事を祈念してご挨拶いたします。 合掌

英会 隆代 松山 印刷
若松 隆英 総代
若松 隆英 印刷



年頭に

あたつて

総代長

島岡 篤

明けましてお目出とうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素は何かと協力をいただきましてありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

五月十一日の一日巡りは吉備路・倉敷美観地区と諸社巡りを行いました。二・四名と言ふ大勢の参加者でバス三台の賑か一日旅行でした。

四月五日に本堂改築工事安全祈願祭を行い、工事を進めております。現在は位牌堂の内仕事に入っておりますが完成は三月頃の予定でございます。

十月七・八・九日の第二回四国巡りも四十七名のご参加で高知方面を賑やかに無事終了いたしました。平成九年度の計画ですが、五月中旬の一日旅行、十月には第三回四国(愛媛県)巡りをと考えております。

私共総代会では本年度三月末までには本堂、位牌堂の工事が終わると思ひますが、附属建物等の工事が残っております。工事には一層努力をしなければと考えております。どうぞ今後共協力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが皆様のご健康とご多幸を祈念いたしましてご挨拶いたします。

ご挨拶

密教婦人会々々

胤草 小夜子

新年明けましてお目出とう御座居ます。平成九年の初春を御家族お揃いでお迎いの事で御座居ます。年を取るにつれ、世の中が目まぐるしく変わり、どんどんと

一年が経つのが早い様に思ひます。平素は密教婦人に、多大な御支援と御協力を賜り有り難う御座居ます。紙上をかりまして一言御礼を述べさせていただきます。

去る平成八年度の世相は色々の事件が御座居ました。起きてはならない宗教の武装化殺害事件、思いもよらないO-157の発病、等々本当に暗い不安な一年でした。でも当地方は何も事件にはふれず、自然の台風、水不足の害もなく、作物の豊作型で先ず先ずの年であった様に思われます。これも仏のお加護のたまものだと思われまふ。

密教婦人部主催の恒例の花祭りもあいに雨天でしたが、大勢の方のお参りを頂き、有り難う御座居ました。毎年御法話をお聞きしていただいておりますが、今年は趣向をかえ、御詠歌の方々の御協力を得て、関本先生の舞踊をして頂き、皆さん半日を楽しんで頂けたのではないのでしょうか。大変なお骨折りましたと感謝致しております。此の花祭りも年々盛大に行われます事を心より祈つて居る次第です。

それからこれは御詠歌を習つて居られる方々の御報告ですが、御詠歌の中国大会(中国五県)が去る十一月四日、五日の二日間、山口県の大島ホテル大観荘で第二十一回目が行われ、朝日寺より二十名の方々が参加されました。各々の組(組)に分かれ曜日を決めてお寺へ集り、奥様を始め教師の方々の御指導を受け、夜遅くまで一生懸命練習に練習を重ね、まだまだ不安が残りの大会に臨みましたが、他の県からこられた方々も皆さん大変お上手でしたので、間違わずに出来たら上の上と思いつつ出場しました。壇上へ上る前には「皆んな大きな声で胸を張つておとなえましょう。」と言いつつ、皆さんの前へ座ると上つてしまひ、これではいけないと心を落ち着けてお唱えをしました。何しろ参加者が四百人との事、本当に緊張をしました。長かった様な短かった様な二日目の午後の閉会式では表彰式が行われ、何んと驚く事なから、備前本部朝日寺支部又々朝日寺支部と言われ、個人団体合わせて六つも入賞して居り唯々驚くばかりでした。こんな一支部より六つも入賞していた支部は他県には有りません。御詠歌を習いは始めて、こんなに沢山の賞を頂いたのは始めてで御座居ます。中には習い始めてまだ一年も経っていない人もあり、長年習っている方々と心を一つにして、皆さんの心の和の結集と、朝日寺のみ仏様のお導きがあったればこそと思つて居ります。これからも益々お稽古にげげみ、御詠歌なら朝日寺と言われる様に皆さん仲良く楽しく励みたいと思つて居ります。

朝日寺灌佛会

問口

山田 栄

御大師のいろはの歌や花祭

園児等の灌佛の列里の寺

茸く花の彩香かんばし花御堂

四国八十八ヶ所

霊場巡りに参加して

下寺

三川 六郎

数年来一度四国八十八ヶ所霊場巡りに参加してみたいと思ひながら中々時を得ず、実現出来なままになっておりました。が、定年退職を期にようやく参加する事が出来ました。この度の霊場巡りに際しましては、お寺さん、総代会会長さん始め総代の方々、納経の為に先導下さった山田さん、山本さん、又、お接待を戴いた株式会社コンドウ様、両備バスの運転手さん、ガイドさん、等々、大変多くの方々の心温まるお世話のおかげで、誰一人の落伍者もなく無事二泊三日の楽しい旅をする事が出来ました。紙面をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

さて、待望の霊場巡り初参加とあつて何かと熟睡できないまま久々の早起きながら、約束の下寺公会堂前六時、数分前ながら同行の諸先輩一同全員集合、やはり若輩が最後かと、感心しながらバスへ、薄明かりの中ブルーラインへ乗り、隆英住職様先達により一同、道中の無事を祈つて般若心経を唱え、瀬戸大橋を渡り、一路四国路へ、本日最初の目的地である、二十九番霊場国分寺へ到着、予定よりかなり早い時間とか。

ここで先ず御本尊様へ般若心経と真言を唱え、次に大師堂へ高祖大師宝号を唱え、と言う作法を教わり、三十番霊場善楽寺、三十一番霊場竹林寺、二十八番霊場大日寺へと歩を進め、車中で昼食を取

りながら二十七番霊場神峰寺へ、神峰寺へはタクシード。タクシード待ちをしているところで納経の為先導下さっている山本さんと山田さんに出会い、何故か懐かしい気持ちで皆で談笑する。

神峰寺への葛折りの坂道には桜が沢山植えてあり、桜の花の頃も大変きれいですとのこと。そして二十四番霊場最御崎寺へ、室戸岬の上より海岸線を眺め、三十数年前数人の友と高知より徳島への旅の途中、潮のひいた岩場で修学旅行の女子高校生と記念写真を撮り合った当時を思いだし、若くして他界した友の冥福を祈りながら岬を下り、二十五番霊場津照寺、二十六番霊場金剛頂寺を経て、第一日目の宿泊地、国民宿舎「あき」へ到着。

二階の部屋より太平洋を眺めながらゆっくり休息、今日一日の旅の疲れを癒しに入浴、食堂に一同で会し和やかな夕食をとり、部屋でのんびりと世間話にながさき、明日の英気を養うために床につく。

第二日目、あいにくの小雨のなか七時三十分お世話になった、国民宿舎「あき」を後にし今日も無事を祈つて般若心経を唱えながら、三十三番霊場神師峰寺へ。そして三十三番霊場雪隠寺、三十四番霊場種間寺、三十五番霊場清滝寺、三十六番霊場青龍寺へと進み、本日の昼食は三陽荘で頂き、三十七番霊場岩本寺へ、これより天下の清流四万十川を左に見ながらサニロード(国道321号線)を通り、ジョン万次郎の話聞きながら足摺スカイラインを越え、延々100キロ余り本日最後の霊場であり又宿泊場所でもある、三十八番霊場金剛福寺へようやく到着、遠くへ来たなど実感する。今日も予定より一時間近くも早い到着、ゆつくりと入浴、夕食を頂き、静かであった部屋ですすがすがしい気持ちになりふと思つに、丁度一カ月前ある会社の慰安旅行に同行していた自分が同じ人間であるのかと錯覚



金剛福寺にて